

命考えながら答え、正解すると大喜びしていました。

木工教室は、あらかじめ用意していたクリスマス用の

ドアノブ飾りのキット四種類の中から選んで作製して

もらうこととしました。四種類すべての見本が素敵で、

皆さんがなかなか一つに絞ることができなかった分、

自分の選んだ作品への思い



クリスマスドアノブ飾り作製中

入れは強かったようです。完成品はどれも個性的な配色

で、クリスマスらしい、素敵な作品となりました。

早めに完成させた子ども達は、ジージーセミかケロ

ケロカエルを自分で作り、楽しみました。九月に日高

村総合運動公園で開催された子ども祭りに参加してく

れていた児童もたくさんい

て、その時にプレゼントしてもらった物を自分で作れるとあって、こちらも大人

気でした。

今回の森林木工教室において、子ども達をはじめ大人

の方々も自分たちの地域の川や自然、森林に興味を

持ってもらうことを願います。

## 各地のたより

### 「森林教室で炭焼き体験」

〈ふれあい推進センター〉

一二月八日、愛媛県松野

町立松野西小学校の四年生二六名を対象に、今年度六

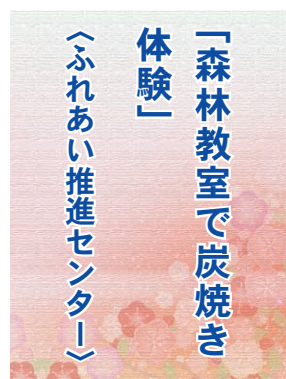
回目の森林教室（炭焼き体験）を行いました。

はじめに、炭の種類や利用法、炭の特性について説

明し、実際の炭を見て、触ってどんなものか確認しまし

た。続いて、炭焼き体験をしました。児童達は、職員か

ました。児童達は、職員か



炭になるのが待ちどおしいな



包んだイモが炭になるかについての実験もしました。たき火に入れて、約三〇分たった頃、ブリキ缶から出る煙の色が透明になる一方で、児童達はアルミホイルに包んだ中身が気になる様子でした。

ら手順や注意点を聞き、ブリキ缶の中に、もみ殻とマツボックリやドングリ、折り鶴など自分達で作ったり、家から持ってきた物を詰めて、ドラム缶のたき火の中へ並べました。

そして、アルミホイルに

ながら炭にはならず、焼き芋となりました。冷めた缶を開けると、折り鶴やドングリ、マツボックリなどはみごとに炭になっていました。

森林環境学習を重ねるに

つれ、児童の森林の大切さや木材利用についての理解が深まり、自然への興味・関心が高まってきていると考えています。

### 「親子木工教室を開催」 〈ふれあい推進センター〉

一二月一日に、高知県四万十市立下田小学校で三年生一二名と保護者を対象に親子木工教室を開催しました。

木工教室を実施するにあたり、学校と相談した結果、「木に釘を打って楽しいものを作りたい。」という要望があり、椅子を製作する

ことになりました。

最初に、椅子の組み立て方法や製作時の注意点について説明した後、事前に準備した椅子のパーツである

ヒノキの板や角材を組み立て児童と父兄が協力して釘を打ち、椅子の製作に挑戦しました。慣れない作業で

悪戦苦闘をした児童もいますが、何とか全員が椅子を完成させることができました。

授業参観日に、児童と父兄と一緒に木材を使って工作ができたことで、親子で木の良さ、木の温もりを感じていただき、木に親しみ

をもつていただけたと思います。後日、児童達から「椅子作りはとても楽しかったです。」



下田小学校椅子製作の様子

「作った椅子は大切に利用しています。来年もお願いしたいです。」等のお手紙をいただきました。

### 目佐児童館との 連携による 森林教室の実施 〈徳島森林管理署〉

一二月七日、毎年恒例の徳島県小松島市立目佐児童館と連携した森林教室を、二二名の参加により実施しました。

初めに、紙芝居「森のめぐりもの」で森の大切さを勉強しました。

その後、「クリスマスツリー」と「クリスマスリース」の工作を行いました。児童たちには、木の実や小枝、モミ等を使用して（ツリーはストラッシュマツをリースはカズラをベース

クリスマスツリー、上手にできるかな



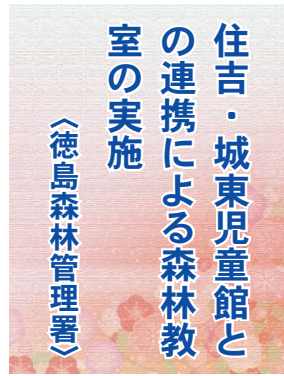
に)それぞれ工夫しながら作ってもらいました。

保護者の方も熱心に児童たちのお手伝いをして、素敵な作品に仕上がりました。

最後に完成品を見せ合い「楽しかったので来年もお願い出来たら。」との感想をもらい、森林教室は楽しい雰囲気の中、終了しました。

これからも学校や地域の

要望に応えられるように、「楽しく分かりやすい」森林環境教育を実施していきたいと考えています。



当署では、例年夏休みに、

徳島市立住吉・城東児童館と連携して森林教室を実施していますが、今年は台風で中止となったため、一月一〇日に三四名の児童に対し実施することになりました。

初めに、紙芝居「森のおくりもの」で、森の大切さを勉強しました。

その後、この時期にぴったりのクリスマスグッズの工作を行いました。児童たちは、木の実や小枝、モミ等を使用して、クリスマスツリーやクリスマスリースを作りました。初めて使



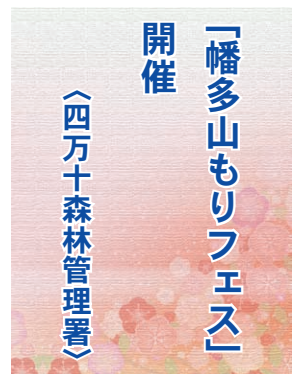
クリスマスツリー、リースの出来上がり

う材料の扱いに苦労しながらも、「自分で作りあげたい。」と頑張りました。

当日はボランティアの方にもお手伝いいただいて、児童たちの工作もスムーズに終わることができました。

最後に完成品を手記念撮影をし、私たちににお礼をしながら笑顔で部屋を出ていく児童たちを見送りながら、楽しい雰囲気の中、終了しました。

これからも学校や地域の要望に応えられるように、「楽しく分かりやすい」森林環境教育を実施していきたいと考えています。



十一月一日、幡多地域の森林資源や林業について理解を深めてもらうと「幡多山もりフェス2015」が、高知県四万十市不破の四万十川河川敷で開催されました。

大勢の人に来ていただき体験していただきました



この催しは、「山と人のつながり」をテーマに「幡多地域の林業のPR」、「幡多地域産材の利用促進」、「木材とのふれあい」を目的とし、幡多地域の各森林組合（七組合）で組織する実行委員会の主催で実施さ

れ、第三回となる今年は、林業や森林資源に関わる四〇団体が参加しました。森林の仕事を紹介するブースや高性能林業機械の展示、林業相談や木工品販売、B級グルメなどの多彩な出店をはじめ、リースづ

くりや、ワークショップ、木育コーナーなどの多彩な内容で約六、〇〇〇人の来場者で終日にぎわいました。

当署も協賛団体として準備段階よりかかわり、

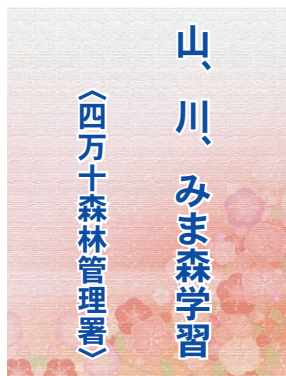
四万十川森林ふれあい推進センターの協力を得ながら、丸太を大のこぎりで挽く体験や、かんたん木工教室、しゃりぼく作り、森林林業〇×クイズなどを実施しました。

この幡多山もりフェスは、日頃、森林や林業にふれる機会の少ない都市部の住民の皆さんに、森林・林業の現状や木材をPRすることを大きな目的とし、更に、幡多地域で林業に関わ

る若手が一堂に会して会場

設営準備から後始末まで協力して行うことにより結束を強めることができるイベントとして定着しつつあります。

当署では、こうした地域の取り組みに積極的に参加し、地域の皆さんと一緒に万十川流域の森、川、海を行うつもりです。



一月一〇日、高知県

四万十町立川口小学校の一年生、四年生の児童が森林環境教育メニュー「山、川、み

ま森学習」の学習を行いました。

同小学校は、児童がふるさとの山や川を学び、その良さを誇れる人に育っていくよう、地域の学習を、年間を通じて低学年から高学年まで一貫した取組を行っています。

当日、三、四年生は「四万十川流域の森、川、海」の物語」として、学校の前を



森林教室

流れている四万十川と流域

の森林の関わりを学び、一、二年生は森の動物たちが森林を整備して住みよい森を作って行く紙芝居を見て、「もりのなかま」や「森のはたらき」を学びました。

同小学校の上流の国有林にはかつて日本一の大ヒノキといわれた「折合（おれあい）の大ヒノキ」があり、また、現在、使用されている運動場は、以前は国有林材等の貯木場でした。このように国有林とつながりの深い小学校であり、今後も

木工クラフト作りなどを通じた木に触れる学習や、学校周辺の植物を知る学習、森林散策や炭焼き体験など

が予定されています。

当署としても、児童たちのこうした森林環境学習を実施し、自然の大切さや森林の必要性を学んでもらうとともに、木材の活用につ

いても関心を持ってもらえるようカリキュラムなどを工夫して行きたいと考えています。



一月一六日、高知県土

佐清水市立中浜小学校の「山の学習」を土佐清水市足摺半島にある佐田山保護林とすぐそばの唐人駄場周

辺において開催しました。

フィールドはスタジイを中心とする常緑樹の天然林である佐田山（白皇山）です。この山は、地元から「しらおうさん」と呼ばれ親しまれており、中浜小学校児童にとつてのふるさとの山です。



「ヤッコソウ」見つけることができたかな

当日は二年生から六年生を移し、スケールの大きな

までの全校児童一九名と先生六名が参加し、当署と「国民参加の森づくり協定」を結んでいる「足摺白皇山自然と歴史保全活動の会」（田村泰助会長）の協力のもと開催しました。

林内には天然記念物のヤッコソウの自生地があり、シイの根元に愛らしい姿を見つけてみんな大喜びで観察することができました。また、歩道沿いにある炭窯跡や猪囲いの石垣、お寺等の史跡により歴史を感じるとともに、森の香りや土の感触、巨木にふれ森林散策を楽しみました。

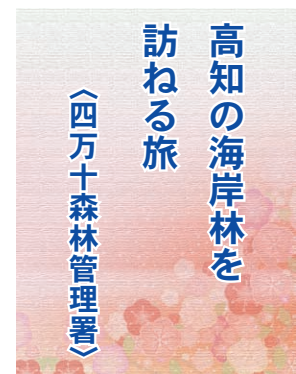
後半は、唐人駄場に場所

巨石、また足摺地方の文化や歴史について田村会長からユーモアたっぷりの説明を受けました。

中浜小学校は地域の自然とふれあうことを大事な教育方針として位置づけており、毎年、自然体験活動を開催しています。

これからもこうした活動を支援して行きたいと思

ます。



一月二三日、高知県緑サポーター会の会員三二名が「高知の海岸林（マツ林）を訪ねる旅」として当森林管理署管内の入野松原を見学しました。

入野松原は、太平洋からの風害や塩害、過去には度重なる暴風雨や津波などから住民を守っている松林で、国の史跡名勝や「名松百選」、「日本の渚百選」にも選ばれている風光明媚な景勝地です。

サポーター会からは、事前に「第二次大戦時、軍による伐採命令に対して、身命を賭して入野松原を守った堀内雍喜中村営林署長のエピソード」や「地域を守る防風保安林としての役割」と松くい虫防除事業「更に「地域と連携した様々な取組」などについて学びたい」という連絡がありました。

そこで、当署から職員が同行し、林内のポイントを散策しながら要望のあったことについて説明を行い、松原の保全活動などについて理解を深めてもらいました。

後日、緑サポーター会から「高知県に豊かな環境を

入野松原を見学中の緑サポーターの皆様



もたらしている樹木を、子や孫に伝えて行く諸活動に  
取り組んでいくうえで大変  
意義深かった」とお手紙を  
いただきました。  
今後とも当署が主体とな  
り地域と連携して入野松原

「木の根ふれあいの森」  
を歩こう活動に参加  
〈嶺北森林管理署〉

の維持管理にむけて様々な  
取り組みを実施して行きた  
いと思います。

一月二三日、高知県い  
の町産業建設課の主催で  
「木の根ふれあいの森」を  
歩こう活動が行われ、その  
中の森林木工教室を四国森  
林管理局と合同で担当しま  
した。  
当日は、公募で大人四名、  
子供七名、いの町役場から  
三名、計一四名に対し、局・  
署からスタッフが応対して  
「木の根ふれあいの森」の

研修室で森林木工教室を実  
施しました。

初めに、当森林管理署の  
総括森林整備官挨拶の後、  
クイズ形式で森林の働きを  
学習しましたが、小学校低  
学年が多いなか、内容的に  
難しい問題が多く、前に進  
むかどうか心配でしたが、  
父兄のアドバイスもあり何  
とか乗り切りました。父兄  
の中には、熱心にメモを取  
る人もおり、指導者が詳細  
に説明するなどしたため、  
少し時間をオーバーして終  
了しました。参加者には全  
員に「良く頑張った賞」と  
してカレンダーをプレゼン  
トしました。

一方、木工教室はドアノ  
ブ（クリスマス）飾り作り  
と竹の貯金箱作りを行い、  
公募の親子一人一人の町  
職員等が四名の計一五名が  
参加しました。  
子ども達の中にはドアノ  
ブ飾りを二〇分程度で仕上  
げ、竹の貯金箱も作る者が  
いましたが、全体的には、  
ドアノブ飾りの色塗りに時  
間が掛かり過ぎて昼食時間  
に食い込んでしまいました  
。出来上がった作品は講  
評後記念カードをプレゼン  
トし、その後ビンゴゲーム  
でジージーセミやケロケロ  
カエルをプレゼントしまし  
た。午後、父兄はトレッキ  
ングに出かけました。  
今回、初めて局技術普及

課と当署合同で森林木工教  
室を実施しましたが、地域  
技術官が地元を良く把握し  
ているということもあり、  
初めてではないような雰囲気  
の中で行えたのは大変良  
かったと思います。



木工教室の様子

